

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2012-246043

(P2012-246043A)

(43) 公開日 平成24年12月13日(2012.12.13)

|                                |               |             |
|--------------------------------|---------------|-------------|
| (51) Int.Cl.                   | F 1           | テーマコード (参考) |
| <b>B 6 5 D 83/76 (2006.01)</b> | B 6 5 D 83/00 | K 3 E 0 1 4 |
| <b>B 6 5 D 47/28 (2006.01)</b> | B 6 5 D 47/28 | L 3 E 0 8 4 |
| <b>B 6 5 D 47/34 (2006.01)</b> | B 6 5 D 47/34 | D           |
| <b>B 6 5 D 83/14 (2006.01)</b> | B 6 5 D 83/14 | F           |

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 13 頁)

|           |                              |          |                                      |
|-----------|------------------------------|----------|--------------------------------------|
| (21) 出願番号 | 特願2011-121467 (P2011-121467) | (71) 出願人 | 000006909                            |
| (22) 出願日  | 平成23年5月31日 (2011. 5. 31)     |          | 株式会社吉野工業所                            |
|           |                              |          | 東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号                |
|           |                              | (74) 代理人 | 100064908                            |
|           |                              |          | 弁理士 志賀 正武                            |
|           |                              | (74) 代理人 | 100094400                            |
|           |                              |          | 弁理士 鈴木 三義                            |
|           |                              | (74) 代理人 | 100106909                            |
|           |                              |          | 弁理士 棚井 澄雄                            |
|           |                              | (74) 代理人 | 100140718                            |
|           |                              |          | 弁理士 仁内 宏紀                            |
|           |                              | (72) 発明者 | 桑原 和仁                                |
|           |                              |          | 東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号 株式会<br>社吉野工業所内 |

最終頁に続く

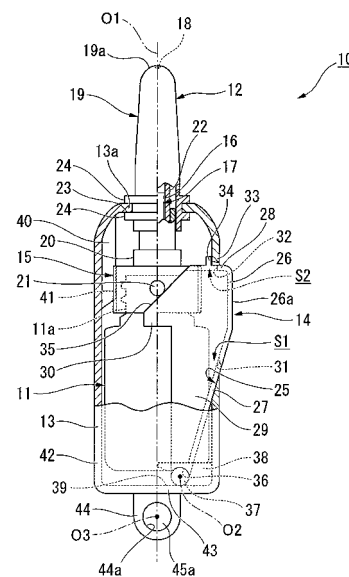
(54) 【発明の名称】 吐出容器

## (57) 【要約】

【課題】 内容物を吐出孔から正確な位置に付着させること。

【解決手段】 内部に容器本体 1 1 が収容され、かつ吐出ヘッド 1 9 が固定される外ケース 1 3 と、該外ケース 1 3 の内部から外部に向けて露出する操作ボタン 1 4 と、を備え、外ケース 1 3 は、開閉軸 O 3 回りに開閉自在に連結された一対のケース分割体 4 2、4 3 が互いに組み合わされてなり、操作ボタン 1 4 は、容器軸 O 1 に交差する押込み方向に沿って外ケース 1 3 の内側に向けて押し込まれるように、外ケース 1 3 に回転軸 O 2 回りに回転自在に連結され、該操作ボタン 1 4 には、押込み方向に沿った前側から後側に向かうに従い漸次、下方から上方に向けて延在し、装着キャップ 1 5 に該装着キャップ 1 5 の下方から当接する押上げ部 3 5 が設けられている吐出容器を提供する。

【選択図】 図 1



## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

内容物が収容される容器本体と、  
該容器本体内の内容物を吐出する吐出器と、を備え、  
該吐出器は、  
前記容器本体の口部に装着される装着キャップと、  
該装着キャップに上方付勢状態で下方移動可能に貫設されたステムを有する吐出器本体と、  
前記ステムの上端部に固定されるとともに、内容物が吐出される吐出孔が頂壁部に形成された有頂筒状の吐出ヘッドと、を備える吐出容器であって、  
内部に前記容器本体が収容され、かつ前記吐出ヘッドが固定される外ケースと、  
該外ケースの内部から外部に向けて露出する操作ボタンと、を備え、  
前記外ケースは、開閉軸回りに開閉自在に連結された一対のケース分割体が互いに組み合わされてなり、  
前記操作ボタンは、容器軸に交差する押込み方向に沿って前記外ケースの内側に向けて押し込まれるように、前記外ケースに回動軸回りに回動自在に連結され、  
該操作ボタンには、前記押込み方向に沿った前側から後側に向かうに従い漸次、下方から上方に向けて延在し、前記装着キャップに該装着キャップの下方から当接する押上げ部が設けられていることを特徴とする吐出容器。

10

## 【請求項 2】

20

請求項 1 記載の吐出容器であって、  
前記外ケース内には、前記装着キャップの前記押込み方向に沿った前側に向けた移動を規制するとともに、該装着キャップの上方に向けた移動を案内する案内部が設けられていることを特徴とする吐出容器。

## 【請求項 3】

請求項 1 または 2 に記載の吐出容器であって、  
前記開閉軸は、前記回動軸と平行に延在していることを特徴とする吐出容器。

## 【請求項 4】

請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載の吐出容器であって、  
前記操作ボタンには、該操作ボタンが後退端位置に位置するときに、前記外ケースに設けられた被係合部に係合することで、該操作ボタンの前記押込み方向に沿った後側に向かう回動を規制する規制部が設けられていることを特徴とする吐出容器。

30

## 【発明の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本発明は、吐出容器に関する。

## 【背景技術】

## 【0002】

内容物を吐出孔から吐出して被付着部分に付着させる吐出容器として、従来から、例えば下記特許文献 1 に示されるような、内容物が収容される容器本体と、該容器本体内の内容物を吐出する吐出器と、を備える構成が知られている。該吐出器は、容器本体の口部に装着される装着キャップと、装着キャップに上方付勢状態で下方移動可能に貫設されたステムを有する吐出器本体と、ステムの上端部に固定されるとともに、内容物が吐出される吐出孔が頂壁部に形成された有頂筒状の吐出ヘッドと、を備えている。

40

## 【先行技術文献】

## 【特許文献】

## 【0003】

【特許文献 1】 特公平 6-13053 号公報

## 【発明の概要】

## 【発明が解決しようとする課題】

50

## 【0004】

しかしながら、前記従来の吐出容器では、内容物を被付着部分に付着させるときに、吐出ヘッドを容器本体に対して押し下げて内容物を吐出孔から吐出するため、この吐出時に吐出ヘッドが移動することで、内容物を正確な位置に付着させることが困難であるという問題があった。

## 【0005】

本発明は、前述した事情に鑑みてなされたものであって、その目的は、内容物を吐出孔から正確な位置に付着させることができる吐出容器を提供することである。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0006】

前記課題を解決するために、本発明は以下の手段を提案している。

本発明に係る吐出容器は、内容物が収容される容器本体と、該容器本体内の内容物を吐出する吐出器と、を備え、該吐出器は、前記容器本体の口部に装着される装着キャップと、該装着キャップに上方付勢状態で下方移動可能に貫設されたステムを有する吐出器本体と、前記ステムの上端部に固定されるとともに、内容物が吐出される吐出孔が頂壁部に形成された有頂筒状の吐出ヘッドと、を備える吐出容器であって、内部に前記容器本体が収容され、かつ前記吐出ヘッドが固定される外ケースと、該外ケースの内部から外部に向けて露出する操作ボタンと、を備え、前記外ケースは、開閉軸回りに開閉自在に連結された一対のケース分割体が互いに組み合わされてなり、前記操作ボタンは、容器軸に交差する押込み方向に沿って前記外ケースの内側に向けて押し込まれるように、前記外ケースに回動軸回りに回動自在に連結され、該操作ボタンには、前記押込み方向に沿った前側から後側に向かうに従い漸次、下方から上方に向けて延在し、前記装着キャップに該装着キャップの下方から当接する押上げ部が設けられていることを特徴とする。

## 【0007】

この発明では、当該吐出容器を形成するときには、まず、一対のケース分割体のうちの一方のケース分割体において、その分割面に沿って形成された開口を通して、該ケース分割体に操作ボタンを配置するとともに回動軸回りに回動自在に連結する。その後、該ケース分割体と他方のケース分割体とを開閉軸回りに相対的に接近移動させ、これらの両分割体の間に、操作ボタンと、吐出器が組み付けられた容器本体と、の両方を挟みこむようにして両分割体を組み合せ、外ケースを形成する。

また、当該吐出容器から内容物を吐出するときには、操作ボタンを押し込むと、操作ボタンが、回動軸回りに回動することで押込み方向に沿った前側に移動する。このとき、操作ボタンの押上げ部と、装着キャップと、が互いに摺接した状態で、操作ボタンが押込み方向に沿った前側に移動することとなり、装着キャップが、押上げ部上を摺動して上方に向けて移動する。これにより、装着キャップが、容器本体とともに外ケースの内部でステムおよび吐出ヘッドに対して押し上げられ、容器本体内の内容物が吐出孔から吐出される。

## 【0008】

以上より、操作ボタンを押し込むことで、内容物を吐出孔から吐出させることができるので、内容物の吐出時に、吐出ヘッドおよび外ケースは上下動させないままにしておくことが可能になり、吐出孔の被付着部分に対する位置を安定させ、内容物を正確な位置に付着させることができる。

また操作ボタンが、回動軸回りに回動することで押込み方向に沿った前側に移動するので、操作ボタンの押込み方向に沿った移動を安定させることが可能になり、押上げ部により装着キャップを確実に押し上げることができる。

さらに、吐出容器を形成するとき、容器本体および操作ボタンを、外ケース内にその口部を通さずに配置することができるので、容器本体および操作ボタンの大きさによらず、外ケースの口部を小さくすることが可能になり、当該吐出容器の小型化を図ることができる。

## 【0009】

また、前記外ケース内には、前記装着キャップの前記押込み方向に沿った前側に向けた移動を規制するとともに、該装着キャップの上方に向けた移動を案内する案内部が設けられていてもよい。

【0010】

この場合、外ケース内に前記案内部が設けられているので、操作ボタンを押し込んだときに、装着キャップの押込み方向の位置を安定させた状態で、装着キャップを円滑に上方に向けて移動させることが可能になり、内容物を確実に吐出させることができる。

【0011】

また、前記開閉軸は、前記回動軸と平行に延在していてもよい。

【0012】

この場合、開閉軸が、回動軸と平行に延在しているので、ケース分割体を開閉軸回りに開閉させる方向を、操作ボタンを回動軸回りに回動させる方向と一致させることが可能になり、両ケース分割体を簡便に組み合わせることができる。

【0013】

また、前記操作ボタンには、該操作ボタンが後退端位置に位置するときに、前記外ケースに設けられた被係合部に係合することで、該操作ボタンの前記押込み方向に沿った後側に向かう回動を規制する規制部が設けられていてもよい。

【0014】

この場合、操作ボタンに、前記規制部が設けられているので、操作ボタンが押し込まれておらず後退端位置に位置する待機状態で、操作ボタンが外ケースの外部に向けて意図せず大きく張り出すのを抑えることが可能になり、操作ボタンが不用意に押し込まれるのを抑制することができる。

【発明の効果】

【0015】

本発明に係る吐出容器によれば、内容物を吐出孔から正確な位置に付着させることができる。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図1】本発明の一実施形態に係る吐出容器の部分縦断面図である。

【図2】図1に示す吐出容器の側面図である。

【図3】図1に示す吐出容器の平面図である。

【図4】図1に示す吐出容器において、ケース分割体を組み合わせる前の状態を示す部分縦断面図である。

【図5】図1に示す吐出容器の作用を説明するための部分縦断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0017】

以下、図面を参照し、本発明の一実施形態に係る吐出容器を説明する。

図1および図2に示すように、吐出容器10は、内容物が収容される容器本体11と、該容器本体11内の内容物を吐出する吐出器12と、内部に容器本体11が収容される外ケース13と、該外ケース13の内部から外部に向けて露出する操作ボタン14と、を備えている。該吐出容器10は、例えば内容物としての点鼻剤を鼻孔内に吐出する点鼻容器などとして用いられる。

【0018】

ここで、容器本体11および外ケース13は有底筒状に形成され、これらの容器本体11および外ケース13の各中心軸線は、共通軸上に位置している。以下、この共通軸を容器軸O1といい、容器軸O1に沿って外ケース13の口部13a側を上側といい、その反対側を下側という。

【0019】

吐出器12は、容器本体11の口部11aに装着される装着キャップ15と、該装着キャップ15に上方付勢状態で下方移動可能に貫設されたステム16を有する吐出器本体1

10

20

30

40

50

7と、ステム16の上端部に固定されるとともに、内容物が吐出される吐出孔18が頂壁部19aに形成された有頂筒状の吐出ヘッド19と、を備えている。該吐出器12は、吐出ヘッド19を押し下げてステム16を下方に移動させ、吐出器本体17を作動させることにより、容器本体11内の内容物を、吐出ヘッド19内を通して吐出孔18から吐出させる。

#### 【0020】

装着キャップ15は、容器軸O1と同軸に配置されるとともに容器軸O1方向の両側に開口し容器本体11の口部11aに外装された本体筒部20と、該本体筒部20の外周面に突設された軸部21と、を備えている。

本体筒部20は、下方から上方に向かうに従い漸次、縮径する多段の筒状に形成されており、本体筒部20のうちの下段部が、前記口部11aに外装されている。

図3に示すように、軸部21は、本体筒部20の前記下段部の外周面に、容器軸O1を間に挟むよう的一对配設されている。これらの軸部21同士の容器軸O1方向の位置は、互いに同等となっている。

#### 【0021】

図1および図2に示すように、吐出器本体17は、前記ステム16と、装着キャップ15から下方に向けて延在するとともに容器本体11内に収容され、内部にステム16の下端部が上下動自在に配設された図示しないシリンダと、ステム16の下端部に設けられるとともに前記シリンダの内部に上下摺動自在に配設された図示しないピストン部材と、ステム16と前記シリンダとの間に介装されるとともに、ステム16を上方付勢する図示しない付勢部材と、を備えており、本実施形態では吐出器本体17として、いわゆるポンプ機構を採用している。

ステム16は、容器軸O1と同軸に配置され、ステム16の上端部は、本体筒部20の上端から上方に突出している。

#### 【0022】

吐出ヘッド19は、容器軸O1と同軸に配置されるとともに、下端から上端に向かうに従い漸次、縮径しており、例えば前記鼻孔内に挿入容易に構成されている。

吐出ヘッド19の頂壁部19aには、前記吐出孔18が、容器軸O1と同軸に配設されている。また該頂壁部19aには、容器軸O1と同軸に配置され内部が吐出孔18と連通するノズル筒部22が、下方に向けて延設されており、該ノズル筒部22の下端部内には、吐出器本体17のステム16の上端部が嵌合されている。

#### 【0023】

吐出ヘッド19の下端部は、装着キャップ15における本体筒部20のうちの上段部に上下動自在に外挿されており、該下端部の外周面には、その全周にわたって延在する環状溝23が形成されている。図示の例では、吐出ヘッド19の下端部の外周面には、容器軸O1と同軸に配置された環状のフランジ部24の内周縁が連結されている。該フランジ部24は、容器軸O1方向に間隔をあけて一对配設されており、これらのフランジ部24の間に前記環状溝23が形成されている。そして該環状溝23内に外ケース13の口部13aが嵌合されており、これにより、外ケース13に吐出ヘッド19が固定されている。

#### 【0024】

図1に示すように、該操作ボタン14は、容器軸O1に交差する押込み方向に沿って外ケース13の内側に向けて押し込まれるように、外ケース13に回動軸O2回りに回動自在に連結されている。本実施形態では、押込み方向は、容器軸O1に直交する方向とされており、押込み方向と回動軸O2方向とが、容器軸O1に直交する図示しない直交面上で互いに直交している。

ここで外ケース13のうち、当該吐出容器10を回動軸O2方向から見た正面視で、容器軸O1よりも押込み方向の後側に位置する後側部分には、該後側部分を押込み方向に貫通する開口部25が形成されており、前記操作ボタン14は、該開口部25から外部に向けて露出している。

#### 【0025】

操作ボタン１４は、開口部２５よりも押込み方向に沿った後側に位置する押込み部材２６と、押込み部材２６の下端部から、押込み方向に沿った前側斜め下側に向けて延設され、下端部が外ケース１３内に位置する下部材２７と、押込み部材２６の上端部から押込み方向に沿った前側に延設され、前端部が外ケース１３内に位置する上部材２８と、これらの下部材２７および上部材２８に上下両端部が各別に連結されるとともに、後端部が押込み部材２６に連結された側部材２９と、側部材２９から押込み方向に沿った前側に向けて突設された押上げ部材３０と、を備えている。

#### 【００２６】

押込み部材２６は、表裏面が押込み方向に直交する板状に形成されており、押込み部材２６において押込み方向に沿った後側を向く表面２６ａが、操作ボタン１４における被押込み部分となっている。

10

図２に示すように、当該吐出容器１０を押込み方向から見た側面視において、押込み部材２６は前記開口部２５の内側に位置している。なお図示の例では、押込み部材２６および開口部２５それぞれの側面視形状はいずれも、辺部が容器軸Ｏ１方向および回動軸Ｏ２方向の各方向に沿う矩形状となっており、押込み部材２６の回動軸Ｏ２方向に沿った大きさは、容器本体１１および装着キャップ１５の回動軸Ｏ２方向に沿った各大きさよりも大きくなっている。

#### 【００２７】

下部材２７は、両側端部が押込み部材２６の両側端部に面一に連結された板状に形成されており、下部材２７において両側端部の間に位置する部分には、該下部材２７を押込み方向に貫通するとともに該下部材２７の下端縁に向けて開口する第１進入凹部３１が形成されている。図１に示すように、この第１進入凹部３１内には、前記容器本体１１が配置されており、第１進入凹部３１の端縁と、容器本体１１の外周面と、の間には、押込み方向の第１隙間Ｓ１があいている。

20

#### 【００２８】

上部材２８は、両側端部が押込み部材２６の両側端部に面一に連結された板状に形成されており、上部材２８において両側端部の間に位置する部分には、該上部材２８を容器軸Ｏ１方向に貫通するとともに該上部材２８の前端縁に向けて開口する第２進入凹部３２が形成されている。この第２進入凹部３２内には、前記装着キャップ１５が配置されており、第２進入凹部３２の端縁と、装着キャップ１５の外周面と、の間には、押込み方向の第２隙間Ｓ２があいている。

30

#### 【００２９】

また、上部材２８の側端部には、操作ボタン１４が後退端位置に位置するときに、外ケース１３に設けられた被係合部３３に係合することで、該操作ボタン１４の押込み方向に沿った後側に向かう回動を規制する規制部３４が設けられている。本実施形態では、被係合部３３は、外ケース１３における開口部２５の開口周縁部により構成されるとともに、規制部３４は、上部材２８から上方に向けて突出する突起状に形成されており、被係合部３３に、該被係合部３３の押込み方向に沿った前側から当接している。

側部材２９は、押込み部材２６、下部材２７および上部材２８の各側端部同士を連結し、表裏面が回動軸Ｏ２方向に直交する板状に形成されており、装着キャップ１５および容器本体１１を回動軸Ｏ２方向に挟むよう的一对配設されている。

40

#### 【００３０】

押上げ部材３０は、一对の側部材２９それぞれに設けられ、装着キャップ１５を回動軸Ｏ２方向に挟むよう的一对配設されており、表裏面が側部材２９の表裏面に面一に連結された板状に形成されている。押上げ部材３０は、側部材２９の下端部よりも上側に配設されるとともに、押上げ部材３０の容器軸Ｏ１方向の位置は、押込み部材２６の容器軸Ｏ１方向の位置と同等とされており、押上げ部材３０は、当該操作ボタン１４を押し込んだときに押込み方向に沿った前側に移動する。

#### 【００３１】

そして本実施形態では、該押上げ部材３０には、押込み方向に沿った前側から後側に向

50

かうに従い漸次、下方から上方に向けて延在し、装着キャップ 15 に該装着キャップ 15 の下方から当接する押上げ部 35 が設けられている。

押上げ部 35 は、押上げ部材 30 の端縁により構成されており、図示の例では、押上げ部材 30 の上端縁により構成されている。押上げ部 35 は、前記正面視で、容器軸 O1 を押込み方向に跨るように延在している。また押上げ部 35 は、装着キャップ 15 の軸部 21 に、該軸部 21 の下方から当接しており、図示の例では、押上げ部 35 のうち、前記正面視で容器軸 O1 よりも押込み方向に沿った後側に位置する部分が、装着キャップ 15 の軸部 21 に当接している。また図 3 に示すように、押上げ部 35 は、装着キャップ 15 のうち、容器軸 O1 を間に挟んで互いに反対側に位置する各部分である各軸部 21 に当接するように、一対配設されている。

10

#### 【0032】

以上のように構成された操作ボタン 14 において、押込み部材 26、下部材 27 の上端部、上部材 28 の後端部および側部材 29 の後端部からなる操作ボタン 14 の後端部が、外ケース 13 の内部から外部に向けて前記開口部 25 を通して張り出すとともに、側部材 29 および下部材 27 の各下端部からなる操作ボタン 14 の下端部が、外ケース 13 に連結されている。

#### 【0033】

操作ボタン 14 の下端部には、外ケース 13 に設けられた被連結部 36 に連結される連結部 37 が設けられている。連結部 37 は、回動軸 O2 と同軸に配置された正面視円形状の軸部材とされ、図 2 に示すように、操作ボタン 14 の下端部から回動軸 O2 方向の外側に向けて突設されている。

20

図 1 および図 4 に示すように、被連結部 36 は、外ケース 13 の前記後側部分における下端部の内周面に配設されており、本実施形態では、内部に前記連結部 37 が回動軸 O2 回りに回転自在に嵌合された正面視円形状の凹部とされている。

#### 【0034】

なお図示の例では、外ケース 13 の前記後側部分における下端部には、回動軸 O2 方向の内側に向けて張り出す張出し部 38 が形成されており、この張出し部 38 と外ケース 13 の底面との間に前記被連結部 36 が形成されている。さらに張出し部 38 には、該張出し部 38 の前端縁と被連結部 36 とを接続する接続溝 39 が形成されており、被連結部 36 は、この接続溝 39 を通して押込み方向に沿った前側に向けて開口している。

30

#### 【0035】

また外ケース 13 内には、装着キャップ 15 の押込み方向に沿った前側に向けた移動を規制するとともに、装着キャップ 15 の上下動を案内する案内部 40 が設けられている。

案内部 40 は、外ケース 13 のうち、前記正面視で、容器軸 O1 よりも押込み方向の前側に位置する前側部分に配設されており、本実施形態では、外ケース 13 の前記前側部分から押込み方向の後側に向けて突設されている。そして案内部 40 は、装着キャップ 15 の本体筒部 20 の外周面に形成された縦溝 41 内に、該縦溝 41 の内壁面に押込み方向に沿った前側から近接または当接した状態で、上下摺動自在に配置されている。なお図示の例では、案内部 40 は、容器軸 O1 方向に延在するとともに、縦溝 41 は、容器軸 O1 方向の両側に向けて開口しており、案内部 40 の下端部が、縦溝 41 内にその上端開口部を通して上方から挿入されている。

40

#### 【0036】

ここで図 4 に示すように、外ケース 13 は、開閉軸 O3 回りに開閉自在に連結された一対のケース分割体 42、43 が互いに組み合わされてなる。本実施形態では、開閉軸 O3 は、回動軸 O2 に平行に延在しており、外ケース 13 は、押込み方向に直交するとともに容器軸 O1 が通過する図示しない分割面に沿って押込み方向に 2 分割されており、本実施形態では、一対のケース分割体 42、43 として、外ケース 13 の前記前側部分を構成する第 1 分割体 42 と、外ケース 13 の前記後側部分を構成する第 2 分割体 43 と、が備えられている。

#### 【0037】

50

これらの両分割体 4 2、4 3 は、両分割体 4 2、4 3 に各別に設けられた取付け部材 4 4、4 5 を介して連結されている。図 2 および図 4 に示すように、第 1 分割体 4 2 には、下方に向けて延在する第 1 取付け部材 4 4 が、回動軸 O 2 方向に隙間をあけて一対配設されている。これらの両第 1 取付け部材 4 4 にはそれぞれ、回動軸 O 2 方向に貫通する正面視円形状の取付け孔 4 4 a が、開閉軸 O 3 と同軸に配設されている。また第 2 分割体 4 3 には、両第 1 取付け部材 4 4 の間に配置される第 2 取付け部材 4 5 が突設されており、この第 2 取付け部材 4 5 には、両第 1 取付け部材 4 4 の各取付け孔 4 4 a 内に、開閉軸 O 3 回りに回転自在に嵌合される正面視円形状の一対の取付け軸 4 5 a が突設されている。

#### 【0038】

ここで、以上のように構成された吐出容器 1 0 を形成するときには、まず、第 2 分割体 4 3 において、その分割面に沿って形成された開口を通して、第 2 分割体 4 3 に操作ボタン 1 4 を配置し、操作ボタン 1 4 の前記後端部を開口部 2 5 から外ケース 1 3 の外部に張り出させるとともに、連結部 3 7 を、接続溝 3 9 を通して被連結部 3 6 内に嵌合させ、操作ボタン 1 4 の下端部を外ケース 1 3 に連結する。これにより操作ボタン 1 4 が、第 2 分割体 4 3 において回動軸 O 2 回りに回動自在に連結される。

また、第 1 分割体 4 2 において、その分割面に沿って形成された開口を通して、第 1 分割体 4 2 に吐出器 1 2 が組み付けられた容器本体 1 1 を配置し、第 1 分割体 4 2 における口部 1 3 a を、吐出ヘッド 1 9 の環状溝 2 3 内に嵌合させながら、第 1 分割体 4 2 の案内内部 4 0 を装着キャップ 1 5 の縦溝 4 1 内に配置する。

さらに、第 2 分割体 4 3 の取付け軸 4 5 a を、第 1 分割体 4 2 の取付け孔 4 4 a 内に嵌合させる。

#### 【0039】

その後、両分割体 4 2、4 3 を開閉軸 O 3 回りに相対的に接近移動させ、これらの両分割体 4 2、4 3 の間に、操作ボタン 1 4 と容器本体 1 1 との両方を挟みこむ。そして、第 2 分割体 4 3 における口部 1 3 a を、吐出ヘッド 1 9 の環状溝 2 3 内に嵌合させて両分割体 4 2、4 3 を組み合わせ、外ケース 1 3 を形成する。

以上により、吐出器 1 2 および容器本体 1 1 が外ケース 1 3 内に配置された吐出容器 1 0 が形成される。

#### 【0040】

次に、前記吐出容器 1 0 を用いて内容物を吐出するときには、図 5 に示すように、操作ボタン 1 4 の押込み部材 2 6 の表面 2 6 a を外ケース 1 3 の内側に向けて押し込むと、操作ボタン 1 4 が、前記第 1 隙間 S 1 および前記第 2 隙間 S 2 を押込み方向に狭めながら回動軸 O 2 回りに回動することで、押込み方向に沿った前側に移動する。

#### 【0041】

すると、装着キャップ 1 5 の押込み方向に沿った前側に向けた移動が案内内部 4 0 により規制され、かつ操作ボタン 1 4 の押上げ部 3 5 と、装着キャップ 1 5 と、が互いに摺接した状態で、操作ボタン 1 4 が押込み方向に沿った前側に移動することとなり、装着キャップ 1 5 の軸部 2 1 が、押上げ部 3 5 上を摺動し、装着キャップ 1 5 が、上方に向けて移動する。このとき本実施形態では、案内内部 4 0 が縦溝 4 1 内を摺動することで、この案内内部 4 0 により、装着キャップ 1 5 の上方に向けた移動が案内される。

#### 【0042】

これにより、装着キャップ 1 5 が、容器本体 1 1 とともに外ケース 1 3 の内部でステム 1 6 および吐出ヘッド 1 9 に対して押し上げられ、ステム 1 6 が、容器本体 1 1 に対して相対的に下方に向けて移動させられる。このとき、ステム 1 6 の移動に追従して前記ピストン部材が前記シリンダの内周面に摺接しつつ下方に移動し、該シリンダ内の内容物が圧縮され、ステム 1 6 内および吐出ヘッド 1 9 の前記ノズル筒部 2 2 内を流通して吐出孔 1 8 から吐出される。

#### 【0043】

その後、操作ボタン 1 4 の押し込みを解除すると、ステム 1 6 に作用する付勢力により、装着キャップ 1 5 が容器本体 1 1 とともにステム 1 6 および吐出ヘッド 1 9 に対して押

し下げられる。このとき装着キャップ 15 の軸部 21 が、押上げ部材 30 の押上げ部 35 に摺接しながら、装着キャップ 15 が下方に移動することで、押上げ部材 30 が、押込み方向に沿った後側に向けて移動させられ、操作ボタン 14 が復元移動させられる。

【0044】

以上説明したように、操作ボタン 14 を押し込むことで、内容物を吐出孔 18 から吐出させることができるので、内容物の吐出時に、吐出ヘッド 19 および外ケース 13 は上下動させないままにしておくことが可能になり、吐出孔 18 の被付着部分に対する位置を安定させ、内容物を正確な位置に付着させることができる。

また操作ボタン 14 が、回動軸 O2 回りに回動することで押込み方向に沿った前側に移動するので、操作ボタン 14 の押込み方向に沿った移動を安定させることが可能になり、押上げ部 35 により装着キャップ 15 を確実に押し上げることができる。

10

【0045】

また、外ケース 13 内に前記案内部 40 が設けられているので、操作ボタン 14 を押し込んだときに、装着キャップ 15 の押込み方向の位置を安定させた状態で、装着キャップ 15 を円滑に上方に向けて移動させることが可能になり、内容物を確実に吐出させることができる。

【0046】

また、操作ボタン 14 に、前記規制部 34 が設けられているので、操作ボタン 14 が押し込まれておらず後退端位置に位置する待機状態で、操作ボタン 14 が外ケース 13 の外部に向けて意図せず大きく張り出すのを抑えることが可能になり、操作ボタン 14 が不用意に押し込まれるのを抑制することができる。

20

【0047】

また、吐出容器 10 を形成するときに、容器本体 11 および操作ボタン 14 を、外ケース 13 内にその口部 13a を通さずに配置することができるので、容器本体 11 および操作ボタン 14 の大きさによらず、外ケース 13 の口部 13a を小さくすることが可能になり、当該吐出容器 10 の小型化を図ることができる。

さらに、開閉軸 O3 が、回動軸 O2 と平行に延在しているので、ケース分割体 42、43 を開閉軸 O3 回りに開閉させる方向を、操作ボタン 14 を回動軸 O2 回りに回動させる方向と一致させることが可能になり、両ケース分割体 42、43 を簡便に組み合わせることができる。

30

【0048】

なお、本発明の技術的範囲は前記実施形態に限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲において種々の変更を加えることが可能である。

例えば、開閉軸 O3 が、回動軸 O2 と平行でなくてもよい。

また前記実施形態では、外ケース 13 は、押込み方向に直交するとともに容器軸 O1 が通過する分割面に沿って押込み方向に 2 分割されているものとしたが、開閉軸回りに開閉自在に連結された一对のケース分割体が互いに組み合わせられてなる他の構成に、適宜変更可能である。例えば、外ケース 13 が、容器軸 O1 を通過しない分割面に沿って押込み方向に 2 分割されていてもよく、また、外ケース 13 が、回動軸 O2 方向や容器軸 O1 方向に 2 分割されていてもよい。

40

【0049】

また、前記実施形態では、一对のケース分割体 42、43 は、両分割体 42、43 に各別に設けられた取付け部材 44、45 を介して連結されているものとしたが、これに限られず、これらの両分割体 42、43 が、ヒンジを介して連結されて一体に成形されていてもよい。さらに、ケース分割体と操作ボタンとがヒンジを介して一体に成形されていてもよい。

【0050】

また、案内部 40 は、前記実施形態に示したものに限られず、装着キャップの押込み方向に沿った前側に向けた移動を規制するとともに、該装着キャップの上方に向けた移動を案内する構成であれば、適宜変更することが可能である。

50

さらに案内部 40 はなくてもよい。

【0051】

また、規制部 34 は前記実施形態に示したものに限られず、該操作ボタンが後退端位置に位置するときに、外ケースに設けられた被係合部に係合することで、該操作ボタンの押込み方向に沿った後側に向かう回動を規制する構成であれば、適宜変更することが可能である。例えば、規制部 34 としての下部材 27 が、被係合部 33 としての外ケース 13 における開口部 25 の開口周縁部に、該開口周縁部の押込み方向に沿った前側から係合してもよい。

さらに前記実施形態では、操作ボタン 14 の押込み方向が、容器軸 O1 に直交する方向であるものとしたが、容器軸 O1 に交差する方向であれば、これに限られない。

10

【0052】

また前記実施形態では、押上げ部 35 が、押上げ部材 30 の上端縁により構成されているものとしたが、これに限られない。例えば、押上げ部材 30 に回動軸 O2 方向に貫通するとともに、押上げ部材 30 の押込み方向に沿った前側から後側に向かうに従い漸次、下方から上方に向けて延在する貫通溝が形成され、この貫通溝を画成する端縁が、押上げ部 35 とされてもよい。

【0053】

また前記実施形態では、押上げ部 35 が、装着キャップ 15 の軸部 21 に、軸部 21 の下方から当接しているものとしたが、これに限られるものではない。例えば装着キャップ 15 の本体筒部 20 に、該本体筒部 20 の下方から当接していてもよい。

20

さらに前記実施形態では、前記待機状態で、押上げ部 35 が、装着キャップ 15 に当接しているものとしたが、操作ボタン 14 が押し込まれたときに、押上げ部 35 が装着キャップ 15 に当接する構成であれば、前記待機状態で、押上げ部 35 が、装着キャップ 15 に当接せずに近接していたり、離間していたりしてもよい。

【0054】

また操作ボタン 14 は、前記実施形態に示したものに限られず、容器軸に交差する押込み方向に沿って外ケースの内側に向けて押し込まれるように、外ケースに回動軸回りに回動自在に連結される他の構成を採用することが可能である。

さらに前記実施形態では、吐出器本体 17 として、いわゆるポンプ機構を採用したが、これに代えて、例えばエアゾール機構などの他の構造を採用してもよい。

30

【0055】

その他、本発明の趣旨に逸脱しない範囲で、前記実施形態における構成要素を周知の構成要素に置き換えることは適宜可能であり、また、前記した変形例を適宜組み合わせてもよい。

【符号の説明】

【0056】

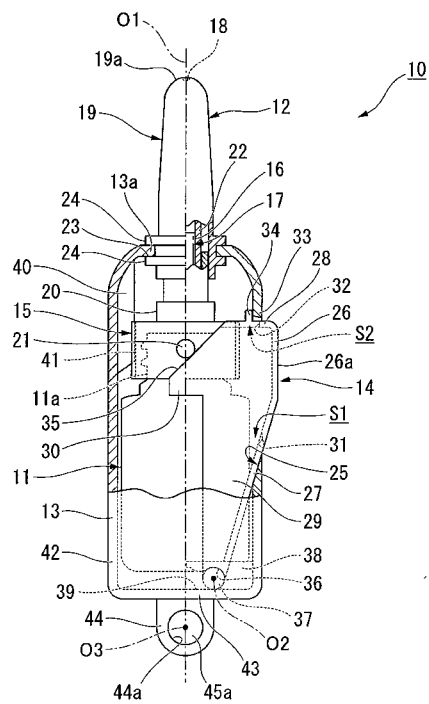
- 10 吐出容器
- 11 容器本体
- 11a 口部
- 12 吐出器
- 13 外ケース
- 14 操作ボタン
- 15 装着キャップ
- 16 ステム
- 17 吐出器本体
- 18 吐出孔
- 19 吐出ヘッド
- 19a 頂壁部
- 33 被係合部
- 34 規制部

40

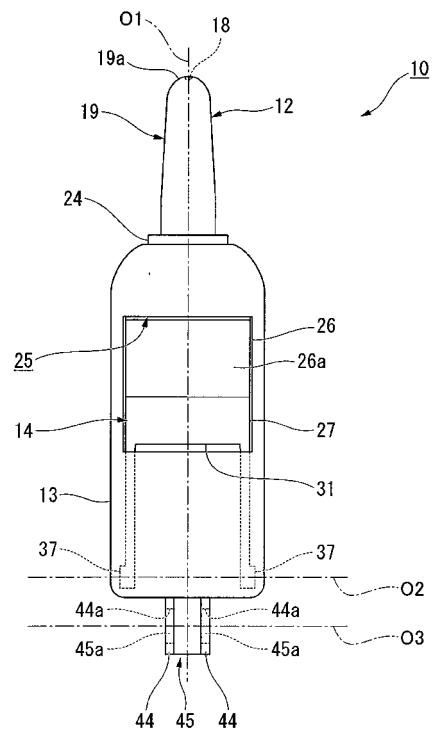
50

- 4 0 案内部  
 4 1 縦溝  
 4 2、4 3 ケース分割体  
 O 1 容器軸  
 O 2 回動軸

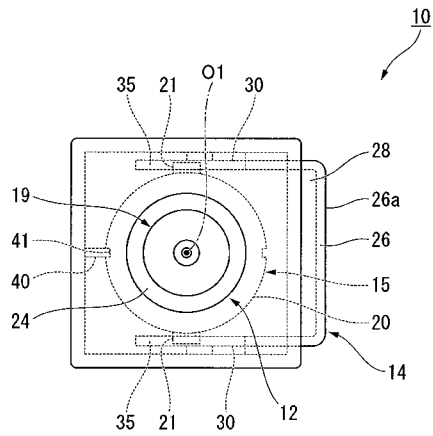
【図 1】



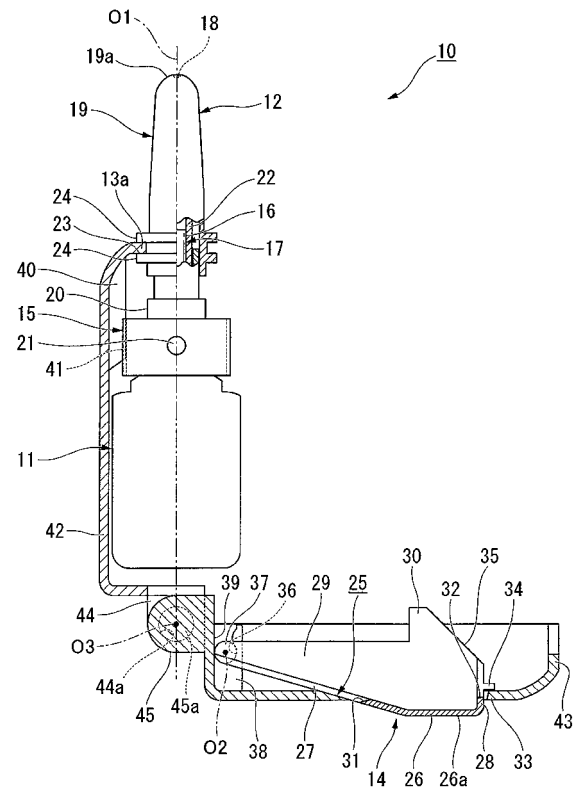
【図 2】



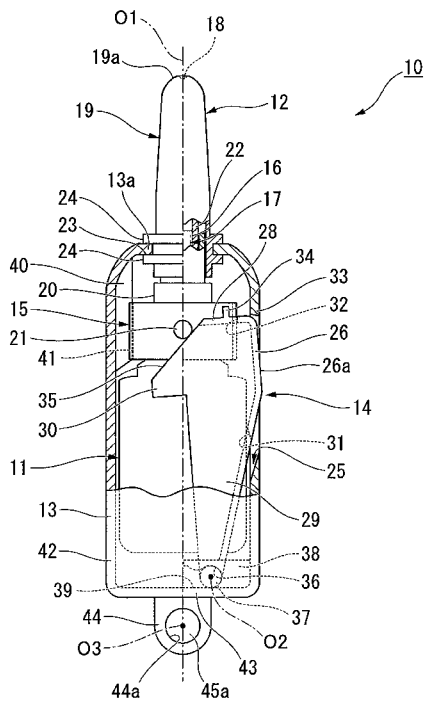
【図 3】



【図 4】



【図 5】



---

フロントページの続き

Fターム(参考) 3E014 PA01 PB01 PD01 PD11 PE06 PE23  
3E084 AA04 BA02 CB02 DB12 FB01 LB02 LD22